

ウクライナから避難したバイオリン

群馬県 高瀬小学校

6年 松倉 郁

今年もお盆はお手伝い。家がお寺なので、お盆は忙しい。特に8月13日は、新盆のご供養でたくさんのだん家さんがいらっしやることになっているので、大忙しです。

「郁ちゃん、今年は新盆のご供養が終わったあとに、ちょっとお時間をいただいて、ウクライナから富岡に避難してきている女の子がバイオリンを演奏するんだって。だん家さんといっしょに聴かせてもらおうね。」

と、母に言われました。

ウクライナから避難！しかもこの富岡に。よく聞いてみると、父のお友達のお寺に住まわせてもらっているらしい。毎日、ニュースで見たり聞いたりするけど、こんな身近にウクライナからの避難民がいるとは思いませんでした。

避難してきているのは、ウクライナ南部オデッサ近郊のニコライウというところに住んでいた、アレクサンドラさん、22歳の女の子。7月にポーランド経由で日本へ入国。知人のつてを頼って、富岡のお寺にたった一人でやってきました。

アレクサンドラさんは、ウクライナでバイオリンを弾いていたのだそうです。わずかな荷物とバイオリンを持って避難したのですが、逃げるときにバイオリンの弓がこわれてしまい、日本に来てから修理をしようと思いました。でも、弓は高価で、直すのは難しいと困っていたところ、わけを聞いた方が修理代はいくらも取らないで直してくれたそうです。

新盆のご供養当日、いよいよアレクサンドラさんが私の家にやってきました。顔が小さくて、白くて、細くてかわいい！ニコニコしながら、英語で話してくれました。ウクライナから逃げてきたと聞いていなかったら、全然わからないくらい、ふつうのかわいい外国の女の子です。

お寺の本堂で新盆のご供養が終わったあと、アレクサンドラさんのバイオリンの演奏が始まりました。私は身近でバイオリンの演奏を聴くのは初めてでしたが、澄んだきれいな音が身体に響いてきて、感動しました。ウクライナから避難してきた、アレクサンドラさんとバイオリン。

遠い空の下では戦争が続き、大勢の人が亡くなっているけれど、今この本堂には、平和の音が流れています。

3曲の演奏が終わり、だん家さんから大きな拍手が起きました。そのあと、募金が行われ、私もお盆のお手伝いでもらったお小遣いをそのまま募金しました。この企画はアレクサンドラさんの自立のために、その後、ほかのお寺でも行われたそうです。

ウクライナは今も戦争が続き、多くの避難民がさまざまな国へ逃れています。アレクサンドラさんは、縁あって日本の富岡へ来ましたが、それも多くの人の親切のおかげだと思います。この先、いつまで戦争が続くのかわかりませんが、アレクサンドラさんやウクライナの人が安心して帰れるようになるまで、私たちは私たちができる親切を続けなければならないと思います。

世界中の親切は、きっと戦争を終わらせてくれると信じています。